

外国人技能実習生の受け入れ ②

王子与志本製材株式会社 本別工場
黒澤 竜哉, 構 雄志, 谷藤 研一



2016年、外国人技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護を図るための技能実習法が公布されました。王子与志本製材株式会社（以下、王子与志本）は、その当時から道内製材工場の中では先駆的に外国人技能実習生（以下、実習生）を受け入れてきました。現在、道内4工場の全てで実習生が働いています。そこで、王子与志本本別工場での技能実習評価試験を機に、黒澤工場長、構安全環境管理室長、谷藤管理課長にお話を伺いました。（文責：普及協会・菊地）

■王子与志本の概要

1985年に創業した王子与志本は道内外5工場（表1）で、道産カラマツ・トドマツを原材とした梱包用製材を生産しています。

本別工場における近年の取扱量は表2のとおりです。

表1 王子与志本の工場所在地

工場	所在地	操業開始
平取工場	平取町	1988.12
網走工場	大空町	2001.7
大樹工場	大樹町	2011.2
本別工場（写真1）	本別町	2014.1
大分工場	大分県佐伯市	2018.1

表2 本別工場の取扱量（2024年度）（m³）

挽立量	16,321
販売数量	7,900
チップ	6,430



写真1 本別工場

■実習生の受け入れ状況

本別工場における実習生の受け入れ状況を表3に示します。

表3 本別工場の実習生受け入れ状況

年	2016	2018	2020	2022	2023	2024
人数	3	3	2	2	2	2

2023年までに受け入れた実習生の滞在期間は1年間に限られていたため、それまでの実習生は全て去っています。実習生の実習期間に係る制度変更後の2024年に受け入れた2名のうち1名が技能実習評価試験を受検・合格し、最大3年間の在留資格を得ています。

本別工場は中国人実習生、他の道内3工場はインドネシア人実習生を受け入れています。インドネシア人実習生は、現地の送出機関を通じて日本語学校出身者を受け入れています。そのため、日本語での日常会話がおおむね可能で、現場でのコミュニケーションが比較的スムーズです。一方、本別工場の中国人実習生は日本語ゼロからのスタートが多く、言語の壁が大きいと感じています。送出機関（送出し国）、監理団体（日本）の力量や考え方などによって実習生の日本語能力に差があります。そのため、実習生の受け入れに際してはこれら機関の選定がきわめて重要になります。その点、当社はうまくいっていると感じています。

本別工場スタッフと実習生のコミュニケーションについては次のように取り組んでいます。

- ・管理団体通訳の定期的な訪問
- ・中国で普及しているメッセージアプリWeChatの、日本語→中国語、中国語→日本語への自動翻訳機能の活用（他工場ではLINEを使用）
- ・音声変換を含むビデオ通話。ビデオ通話にはタイムラグがあるので日常使いには不便な面があるが、不測の事態が起きた際の対応に役立つことがある。翻訳機能の進化は著しく、今後ますますレスポンスが速く、正確な言語変換が可能になっていくだろうと考えている。

■技能指導

技能実習1号の1年間は、まず積込み作業から始め、次いで小割り、クロスカットなどの製材作業を含む広範な作業を経験させます。技能実習2号に進むと、ツインテーブルのオペレーター業務など、生産に深く関わる役割を担わせることを方針としています。このような現場での指導は職長や工場長が担当し、実習生の適性や能力を見ながら、安全な作業への配置換え、より高度な作業への挑戦などを判断しています。

技能指導の方法、工夫などの一例を表4に示します。

■生活サポート

実習生に対する生活サポートの一例を表5に示します。

■今後

今年、あらたな技能実習生の入社が予定されているので、その入居準備を進めています。受け入れに伴う書類作成や事務手続きなどは監理団体と分担して進めることで、負担が軽減されています。また、社内他工場と経験、ノウハウを共有し、相談できる体制があることも当社の強みで、例えば、実習生の技能実習評価試験受検もスムーズに対応できています。

今後、3年間の技能実習期間を終える実習生があらわれてきますが、まずは実習生の希望やキャリアプランを尊重することを基本方針としています。特定技能に移行するかどうかも本人の意思に委ねています。その上で、安全に対する配慮、適切・公平な評価といった当社の方針が支持され、当社が選択されることを望んでいます。

表4 技能指導の方法、工夫

業務指導	<ul style="list-style-type: none">すべての従業員に対する平等な対応、差別・区別の禁止の徹底(当社の基本原則)工場内表示への中国語、インドネシア語の併記危険箇所表示の多言語化
安全教育	<ul style="list-style-type: none">日本人新入社員と同様の、入社時安全教育の実施作業手順書や安全マニュアルは全て中国語・インドネシア語バージョンを用意現場での読み合わせ

表5 実習生の生活サポート

住居	<ul style="list-style-type: none">本別町の町職員住宅を一棟単位で借り上げ、一棟に2人入居生活必需品の準備、ライフラインの整備
生活支援	<ul style="list-style-type: none">住宅から職場まで約2キロの距離があるので、夏は自転車を貸与し、冬は送迎病院への送迎半年に1回程度、帯広や釧路への買い物
地域交流	<ul style="list-style-type: none">町役場と連携し、外国人実習生の存在を知らせている交流を好まない実習生もいるため、個々の希望に合わせて対応歓迎会や町のイベントへの参加を企画(実習生の性格や希望により参加度合いは異なる)